

表4 2005年12月～2006年1月において検出された集積期間内外における覚知時間別件数

覚知時間	男性心原性				女性心原性			
	集積期間内		集積期間外		集積期間内		集積期間外	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
	12/30-1/10				12/29-1/11			
0～6時	265	13.73	851	13.62	202	12.23	517	11.84
6～12時	599	31.04	2,000	32.02	548	33.17	1,494	34.20
12～18時	536	27.77	1,658	26.54	398	24.09	1,048	23.99
18～24時	530	27.46	1,738	27.82	504	30.51	1,309	29.97
計	1,930	100.00	6,247	100.00	1,652	100.00	4,368	100.00

覚知時間	男性非心原性				女性非心原性			
	集積期間内		集積期間外		集積期間内		集積期間外	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
	1/1-1/3				12/30-1/5			
0～6時	63	12.73	744	12.89	72	11.73	379	10.58
6～12時	170	34.34	1,629	28.23	189	30.78	988	27.58
12～18時	125	25.25	1,761	30.52	172	28.01	1,040	29.03
18～24時	137	27.68	1,636	28.35	181	29.48	1,175	32.80
計	495	100.00	5,770	100.00	614	100.00	3,582	100.00

まとめ・検討事項

- 週単位の発生件数に関して、夏季よりも冬季に多い傾向が確認された。
- 詳細に日単位で検討を行ったところ、年末年始時期に特異的な増加が認められた。
- 時間集積性の検定によって、いずれの年においても年末年始時期に最も有意な集積が検出された。
- 地域(都道府県)、男女別、心原性・非心原性を問わず、いずれも年末年始時期に高くなっている(集積が検出される)
⇒例えば正月に多く発生する餅による窒息などの外的要因での事故が顕著に増えているのではなく、性別や原因の別はなく全体に増加していると考えられた。
- さらに検出された集積期間内とそれ以外(12月～1月)で搬送された傷病者の年齢構成を比較しても大きな違いが見られなかったことから、特定の年代だけが年末年始に増加しているのではなく、どの年代でも増加していると考えられる。

まとめ・検討事項

- 一方で、最も件数の多い東京都でも元日の発生件数は70件程度でピークとなっているが、12月初旬でも40～50件程度になっている日もある。
- つまり正月が多いといっても東京都全体で日頃の多い日より増加するのは30件程度であり、それを消防署単位や病院単位で見ると、単純に考えれば1～2件増えた程度である。
- さらに人口の少ない県などでは県全体でも数件増える程度になっている。
- また救命救急センターなどの救急外来では、心肺機能停止傷病者に限らず総じて受診患者が年末年始時期に増加している。
- このことから各地域や医療機関では年末年始時期に急激に心肺機能停止傷病者の搬送件数が増えているとは認識されていないのではないかと思われる。

まとめ・検討事項

- 本研究によって、全国的に年末年始時期に特異的に搬送件数が増えていることが明らかになった。
- このことは、心肺機能停止や救急搬送の問題を、個々の患者ではなく、地域における公衆衛生上の課題として取り組む必要があることを示唆している。
- また今回われわれが用いた時間集積性の検定による検討は、このような顕在化されていない健康問題を浮き彫りにする上で有用な方法であると考えられる。

……要因は???

まとめ・検討事項

- **要因**に関しては、**長期休日**による医療アクセシビリティの低下、多くの医療機関が休診になることや、それが**医療受診行動**に影響を与えている可能性も考えられる。
- **急性心筋梗塞による死亡と地域の救急医療資源の関連**も示唆されており、この時期多くの医療機関が休診になることや、それが患者の医療受診行動に少なからず影響を与えている可能性も考えられる。
- しかし**現在のウツタイン様式に基づく救急蘇生統計のデータ**からは、**集積の原因を明らかにすることはできなかった**。
- この原因を明らかにすることは対策を探る上でも重要な情報になると考えられ、より詳細な救急搬送データや医療データ、平成25年からの追加項目(疾病、発生場所など)を利用した検討が必要である。

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
なし					

